

K S K Q

2025年度 第3号

オリブだより



共に生きる挑戦



明けましておめでとうございます。

今年より、年賀状の代わりに、オリブだよりの新年号で新年のご挨拶をすることになりました。これまでオリブだよりでは、理事長のひとこととして、一番最後のページを書かせてもらっていたのですが、今回は表紙になります。途端に、キーボードをたたく手が進まなくなりました。裏だからというわけではありませんが、これまで割とその時々と思うことをつらつらと思うままに書いていましたが、今回は表紙ということで、法人を代表する理事長として恥ずかしくない文章を書かなくてはと力んでしまっています、肩の力を抜きます。

私たちの大切な思いが詰まっている、オリブを利用しようとする過程の話をします。オリブホットハウスやグループホーム小山の家を利用したいという問い合わせを各関係機関や当事者の方からいただきます。その際に、関係機関であればその機関のスタッフの同行を、当事者の方の直接の連絡であれば、医療機関のワーカーや保健センターの担当相談員等の同行をお願いしています。自分のことは自分で決める、自己決定の面から行くとやや時間を要することにはなるのですが、その後の支援の継続性を意識してそのような形を取らせてもらっています。当事者の方が踏み出した一歩を、オリブという機関だけで担うのは、その後の不利益につながる可能性があると考えからです。仮に、オリブという場所がご本人に合わなかった場合、次の行先を考える必要があります。その際にオリブ以外の関係機関とつながっておいてもらえると、そこでまた相談することができます。また、その踏み出した一歩が、環境の変化となり、ご本人のしんどさにつながることもあります。その際に、医療機関等とつながっていれば、関係を築き始めて間もない私たちより、ご本人さんのことをよく知っておられる方に見守りをお願いすることができます。また、見学に来られた際も出来るだけ他の事業所の見学を勧めるようにしています。継続して通えるかどうかは、立地や環境、雰囲気、スタッフの様子等々、様々な要因に左右されます。出来るだけ安心して長く通ってもらえる事業所を選んでもらいたいと考えているからです。また、見学してその後に体験期間を設けていますが、それも同様の理由で、新たな環境にチャレンジされたその気持ちを大切にしたいからです。

これらの過程を、スタッフ全員で共有していきます。問い合わせの経緯、ご本人の様子、関係機関の有無、体験中の様子等々、スタッフで熟議した末に、登録・通所をしてもらいます。この過程は、当然時間はかかります。時にまどろっこしく、イライラさせたりするのかもしれませんが、その過程を当事者の思いを大切にしたいからだ和理解をしてもらえると嬉しく思います。また、その時間がかかるプロセスが、私たちスタッフを成長させてくれる期間だと考えています。自分とは違う意見を取り入れたり、違う視点に気付いたり、当事者の方々のことをたくさん知ろうとしたり。

あるTV番組でコメンテーターが民主主義は時間がかかると話しておられました。独裁は決定がすぐです、ただし、熟議していないので、間違った方向にいくことも常で、でもそれさえも隠せてしまいます。理事長という職務はある種の決定を下していくことではありますが、その決定が民主的な過程を経たものでなければいけないと思っています。それは共同作業所が培ってきた歴史の成果でもあります。(そもそも社会福祉法人という形態上、理事長の独善的な経営は出来ない仕組みになっていますが。)

京都新聞で、「正義論」を書いた20世紀を代表する政治哲学者ジョン・ロールズの言葉が紹介されていました。『社会とは「敵でも味方でもない」たくさんの市民が共に生きる挑戦なのだ』と。そうすることで、各人が独力で生きることと比較して、社会において皆で取り組むことにより、全ての人にとってよりよい暮らしが可能になります。オリブという場所も、異なる立場の方々の意見を取り入れ、熟議し、共に生きる(過ごす)挑戦を続けたいと思います。時に時間がかかるその過程がメンバーを守り、メンバーから、そして地域から必要とされる事業所作りにつながっていくと信じています。至らぬところも多々あるかと思いますが、その挑戦に参加するつもりで、今年もオリブをよろしく願いいたします。



秋の出店うっしゅ



「にぎわった秋の出店～地域の皆さんと共に」

毎年秋にはたくさん出店販売がありますが令和7年はこれまで以上に多くの出店にお呼び頂き、また殆どの出店でこれまで以上に多くの売り上げや温かいお声掛けを頂けたように思っています。例えば音羽メディカルフェスでコインケースを買ってくれた少年が安朱学区のお祭りの時にも同じコインケースを買い求めに来てくれたり、出店の時にお渡ししたリーフを持ってお店までパンを買いに来てくれたお母さんがおられたり、またオリーブの無農薬のお野菜を楽しみにして下さっていた方が嬉しそうに野菜をたくさん購入してくれたり、感謝のお手紙を頂いたり…そういったことが書ききれないくらいたくさんありました。オリーブの商品や活動を知って是非出店をして欲しい！とお声掛け頂くことも多くなりました。この山科の施設として認知して頂き、地域の皆さんに応援して頂けることは本当に大切な事だなぁと思います。

11月末、オリーブの在る東野北部第二町内会のお祭りに参加した時の事です。地域の方々が何人もオリーブのマフラーを巻いて来て下さいました。そしてオリーブ商品を囲んでわいわいとし楽しんで頂き、るまん音楽隊のコーラスに合わせて皆で歌を歌って下さいました。コーラスを教えて下さっている大久保先生のご尽力もあり、例年以上に町内の皆さんからのお声掛けを頂き、あたたかな親しみを感じることができました。毎年少しずつですが変わらず地道に取り組んできたことが、単に売り上げの多さだけではなく、あたたかい応援の声としてたくさん届くようになってきた事が何より大きな喜びであり、我々の力になると感じています。

今年も地道に変わらず、でもいつも新しい気持ちで地域の皆さんと共にあるオリーブを作って行きたいと思っています。そのことがきっとメンバーの皆さんにとっても大きな力になっていくと思っています！(正岡)

忘・心・新年会のこと

オリーブの年末最終日は忘年会で締めくくります。それぞれにいろんなことがありますが、この時間は、いつも少し違った時間をメンバー、スタッフ一緒に過ごしています。



委員さんとスタッフでメニューを決めました。
お腹いっぱいになったかな。なっていたら安心します。



出し物。
毎年長い時間をかけて考え披露してくれるMさん、Yさん。今年もみんなを楽しませてくれました。



みんな好きなビンゴ大会。
当たったものは袋から出してみんなに見せるのが恒例。貼るカイロ、貼らないカイロ両方入っている気遣い。委員さんありがとう。残り物にちょっとした福がありました。

年始は新年会から始まります。休み中の出来事を歩きながら話す時間も大切な時間です。初詣、ご飯に向かいました。



近くの神社に初詣。
手作りおみくじの中身をそれぞれに披露。今年の抱負を述べる方も。



7、8年ぶりの「さとしゃぶ」を食べに和食さとへ。
あら、美味しい！



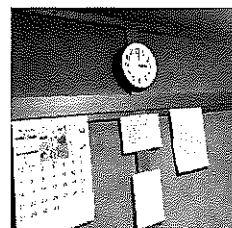
一人ではなかなかしない鍋。みんなでお鍋するのはいいものです。

とある

グループホームスタッフの
一年



オリーブだよりの記事の依頼を受け、去年はどんな一年だったかな？と振り返ってみました。面白いなと思ったことがあったので少しお話しさせていただきます。春にはお弁当を買ってお花見レク。夏には畑の野菜を使ったピザレク。冬には忘年会。出来事の一つ一つを振り返ると、あんな事もあったな、こんなこともあったなあとなるのですが、「一年どうやった？」ときかれると一瞬だった気がするのです。なぜなのでしょう。



リビングに時計。



春にお花見に行きました。

「1日は24時間で、1時間は60分、1分は60秒」といったように電子機器や時計の中では当たりまえとされる事がありますが、どうも私の中の時間は時計の針の様に正確には進んでいないように感じます。

何かに熱中したりすると「あっ」という間に時間が過ぎるし、何か、誰かを待っているときにはものすごく長く感じる事ががあります。私の時間はその時の感情によって早送りしたりや、ゆっくりにしたり、そういった機能がある気がしてならないのです。



ピザレク。好きな具材をトッピング。こげたところは切りました。

ちいとし話

復・感・再・最の前厄だった1年

去年は例年になく波乱万丈の年でありました。

3月に10数年ぶりに、オリーブの活動を復帰しました。年齢や体力の事を考え、屋内の作業をしようと思い、現在も日々努力している途中だ。

その働きぶりが認められたのか、先斗町の歌舞練場での「鴨川をどり」を見に行く事が出来ました。ただ感動のひとつに気づきました。もちろん、この歌舞練場が大ヒット上映した「国宝」の舞台の1つであることは知りませんでした。

さて9月のオリーブでの宿泊旅行で伊勢神宮《外宮》を再参拝しました。ここまでは、明るい事ばかりだった。

10月上旬、不注意で転倒し、2日後に入院、その週末には手術しました。早ければ、11月上旬には退院出来る筈であった。

ところが、「弱り目にはたたり目」とはこの事かと思うことがありました。

衣類や音楽の流行にも乗り遅れている自分が、再流行していたコロナに感染してしまいました。

隔離病室に入っていた約2週間は、この入院の中で最悪だった。(前進我道)



大也 鮎
山科区竹鼻地藏寺南町3-1
定休日 月曜日

友人とランチ。
山科駅近くの大也鮎さんへ。
セットメニューのかけうどんとお寿司5貫を頼みました。
お寿司1貫サービスのおまけつき。
舌触りが良く、とてもおいしかったです。
これで千円。
コスバいいです。
私たちは開店11時半の少し前に行ったので、すぐ入れましたが、お店を出た頃には行列ができてました。

グルメレポート

メンバーさんが地域で食した店を、今年度は紹介していきます。

2026年今年の抱負

レンズを買うより

写真を撮れ!!!

P.N. 天の声

新しいエッセイを始めたい

2026年の目標

- ・そういくふう年
- ・ゆうき
- ・えきお
- の年にしたいです



着物寄付のお願いです。
オリーブでは寄付で頂いた
着物や糸で色々な製品を
作っています。頂いたものが
形を変えて誰かの元へ
届くよう大切に使用して
頂きます。

よろしく お願い
いたします。

元
氣に
は
さ
る

健康
オ
ー

スチール

のにうんはな

自主製作品(着物の糸は他)
出店販売 頑張るぞ!

前進 我道

今年こそ いい年に 30歳

無理せず

だって 自分 は 年男 なり

前進 我道

あと15年
生きてます。

1日の作業時間を

増やしたい

健康で仕事を休む事無く
順風満帆に行きたいです!
F.S

「心穏やかに 毎日モ
大七に 精一不楽(み)」
シバ 気持ちで過ごしたい
です
H.F

現在の生活に
もっと「ゆとり」と「あゆみ」を
取り入れたい。
抱負というより
「一歩的な願望」です
R.H

編集後記

- ・七赤金星人(+)ファイト! 昨年は、蛇(ヘビ)な一年だった。今年は、年齢に合していれば牛(うま)く行くような気がします。(前進我道)
- ・前号がちようどそうだったのですが、編集作業の進行の都合で刷り上がりが2パターンになるところがあります。ご興味のおありな方は、ぜひ探してみてください。(E17)
- ・年末年始いかがお過ごしでしたか。普段と違う生活。私はのんびり田舎で過ごしたのですが、3日もたてば飽きてしまいいつもの生活に戻りたくなりました。(はま)

オリーブだより 2026年1月編集
発行人
関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2
東興ビル4階
編集人
オリーブホットハウス
社会福祉法人 オリーブの会
京都市山科区東野中井ノ上町3-33
TEL : 075-591-4669
FAX : 075-591-4679
ホームページ <http://olive-net.info/>
フェイスブック
<https://www.facebook.com/olivehothouse/>
メールアドレス
olive-cw@rio.odn.ne.jp
定価 50円

※オリーブだよりのバックナンバーを読みたい方は、ホームページに掲載しております。

発行
いつもありがとうございます。
岩村チエ子様、佐藤純様、大河内清子様、
木谷真人様、木谷恵様、(株)大曜様、京都奉
製(株)様、西谷様、小川様、三代一様、田
中様、ダイゴ様、京都ほっとはあとセンター
様、谷直介様、總本山醍醐寺様、洛和会ヘル
スケアシステム様、関西よつ葉連絡会様、
(株)よつ葉ホームデリーリッパ、竹之内
運送(株)様、里地クリニックス様、(株)ヤマ
シナ様、オーガニックマーケットしが実行委
員会様、国際交流の会とよなか中国様、ケイ
アンドアイ様、近畿オービス(株)様、
(株)キョークロ様、(株)南栄紙工様、
(株)エポックフアールベン様、ル・クロラボ
様、京都中小企業家同友会様、ゆめハウス様、
介護老人保健施設おおよけの里様、(有)ア
グロス胡麻郷様、(一社)サンライズ様、京
都社会就労センター協議会様、京都新聞社会
福祉事業団様、京都府こども減量推進会議様、
大宅学区社会福祉協議会様、山科区社会福祉
協議会様、大宅学区民生児童委員会協議会様、
山科区役所保健福祉センター様、京都府高齢
者支援課様、山科区役所子どもはぐくみ室様
(令和七年十月、令和八年一月順不同)